

秋田の貴重猛禽類 ～その繁殖生態と営巣環境～

秋田大学名誉教授 小笠原 暁

只今、ご紹介いただきました小笠原と申します。今は悠々自適の身でありまして、と申しましても午前中、聖霊短大で授業を行って今こちらに来たところです。今日のテーマは、「秋田の希少猛禽類その繁殖生態と営巣環境」です。皆さんに抜粋のコピーが行き渡っていると思いますが、これは秋田魁新報社の出版部より平成15年度、私の退官と同時に1冊の本にまとめたものであります。この紹介する中身は、私が全部調査研究したというものではありません。実は今、いろいろな機関の委員会の委員長もしており、道路を始めダム関係のアセスに関わる検討委員会に参画しております。そういう関係上、アセスの内容が全部私の手元に入ることになりまして、小林先生とも何度もご一緒させて頂いておりますけれども、こういう資料を基に国土交通省秋田工事事務所が退官の記念として国土交通省関係の職員に対して何か記念講演を行ってくれないかということで、取りまとめたのが今日紹介する内容です。

記念講演が終わった次の週、担当課長が参りまして、折角面白い内容だからこれを一冊の本にまとめて発表してくれないかという要請がありました。ただこういう本というのは売れる品物ではありません。なかなか売れません。今の出版界はまるっきり今年の大雪と同じで冷え込んでおりましてなかなか売れません。そこで秋田魁新報社から以前クマガラ世界という本を出版しておりますので、担当出版部長と懇意でありますので、どんなものでありましようかと率直に御相談したところ、何冊か買い取ってくれるなら800部は印刷しても良いという話になりました。そこでキャッチボールをしまして秋田工事事務所に素直に話しましたら何百冊かはうちの方で買い取りましようという条件を付けまして一冊の本になりました。したがって今日ここでお話しする内容は本の内容に沿ってお話ししますが、これは著作権上、秋田魁新報社が発行した中身であることを明記して下さいと、そうでなければ著作権侵害に引っ掛かりますということで内諾を得て今日に至りました。先ほどの発表を聞いていますと非常に難しい話ばかりで、私どもはちんぷんかんぷんです。今日は皆さんに私の講演で楽しんで頂きたいと言うふうに存じておりますのでよろしくお願ひします。

今日お話しするのは「希少猛禽類」この本の中には、秋田県に生息する猛禽類すべて入っているんですが、今日は時間の関係上、最も貴重だといわれているイヌワシ・クマタカ・オオタカの3種類に限ってお話しいたします。今日、使わせていただく写真等も私自身が撮ったものでないものが入っています。これは私の友人、鳥仲間あるいは教え子等から了解を得て借用したものであります。図1はイヌワシ生息・繁殖地分布図です。実はコンターの入った精巧な地図の上に図化しようとしたら総好かんを食らいました。そんなことをしたら猛禽類に狂った連中が中央方面から乗り込んでまいりまして雛をかつ払ってしまう。闇取引でイヌワシの巣立ち間際の雛なんか相場で1羽百万円以上はするそうです。ネットオークションでも可能なんです。ところが法

律的に鳥獣保護及び狩猟に関する法律等で、もし見つかって罰則を受けたとしても30万円以下の罰金です。したがって70万円は儲かる。これでは何のための法律だかよく分かりません。そこで、いろいろ工夫いたしました。数年前、宮城県にはメッシュ解析の中にイヌワシの巣がありますよと評価した報告書がありました。右の図1は、それを真似して非常に大ざっぱに10kmメッシュが引いてあります。ここの10kmメッシュの中にイヌワシの巣がありますよというものです。これを秋田県の地図に照らし合わせてみると大体、片仮名のコの字形に分布が広がっていることが分かります。後でクマタカも出てまいります、クマタカは真ん中に出てきます。オオタカは海岸から逆コの字形に出てきます。ただオオタカはまだアセス法に掛からない。つまり工事をしていない所は調査していませんので、調査すればまだまだ沢山でてくると思います。秋田県は非常にオオタカが多い土地柄であります。

現在、鳥海山でイヌワシは繁殖していません。ここはかなり古くから知られているところです。私が昭和42年に秋田大学に赴任した時には、土地の人から鳥海山に幻のワシがいるということで行って見ましたら、何のことはないイヌワシでした。これが初めて確認されたところです。何年か連続して繁殖していたんですが、報道等で発表されましたので、すぐに奈曽の白滝の上流であることが大抵わかります。もう20年位前なんですけど、先ほど言いましたように、ちょっと悪い連中がまいりまして、ロープを使って上から巣に乗り込み雛を捕まえようとしたが失敗し、雛はそのまま巣立ってしまい、その腹癒せに巣ごと全部け落としてしまいました。県の自然保護課が相談にきました、自然の成り行きに任せることにしました。その後、巣材は運んでいるんですが、それ以降、全く繁殖の兆しがなく現在に至っています。途中で1回抱卵したのかなという経緯がありましたが現在はやっていません。現在は鳥海山の繁殖地が抜けてしまいましたが、コの字形の分布状態を保っております。岩手県側がどうなっているかは分かりませんが、岩手県でワシをやっている連中が沢山おりますので、みんな分かると思います。

先ほどの地図の中にある十丈の滝は古くからよく知られている営巣地であります。旧生保内管内の集落のすぐ上の十丈の滝というところで長年繁殖しております。千葉和彦さんという消防士の方がですが、若い頃から、ここに張り付いて調査活動をしております。ところが、この真下に牧草地がありますけれど、そこに、どこかの会

イヌワシ生息・繁殖地分布図

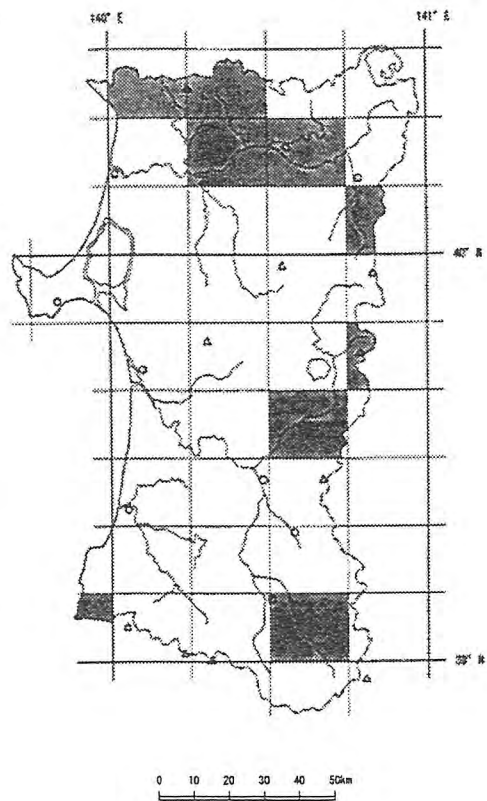


図1 イヌワシ生息・繁殖地分布図

社がゴルフ場を造りたいという申し出たことから、県が立ち上がりまして、お金を出して検討委員会で基礎的な調査をした上で判断しようということになりました。岩手県の由井さんと私どもが検討委員会をつくり、県が音頭をとって行ったんですが、このデータはなぜか日本自然保護協会の報告書に全く同じ年に同じ場所で2つのチームが調査をしました。私が秋田県のそういう泥臭いところで調査をしますと、ちょっとあとで、後ろからドスンと来るかなという気がして、県の自然保護課長と一緒に由井さんのところに乗り込みまして、「由井さん貴方がやってよ」ということで由井さんに調査をお願いしました。彼は当時、森林総研にいましたので、岩手大学の調査研究グループを立ち上げて調査しました。ほとんど調査結果や行動範囲等は同じです。こちらの方が比較的わかりやすいので、これを私は取り入れました。したがってゴルフ場を造りたいというのはちょうどこの辺です。行動圏の真っただ中にあると言っても過言ではありません。その後、私どもの調査検討委員会としては、こういう結果から、ここにゴルフ場を造ったらイヌワシの繁殖に大いに影響があるだろうという結論を出しました。その結果、業者は手を引いてここは現状維持でいるところであります。これが自然保護と開発との間に立たされた私どもの結論を出した1つの例です。幸い、ここはずっと長く繁殖活動を続けています。このデータ1つ取るのにどれくらいの日数と延べ人数がかかっているか図り知れないものがあります。

そこでイヌワシの営巣地の一覧表を作ってみました。これは市町村単位までにしました表2と3です。地番まで入れますと、先ほどの悪い連中がまいり巣を特定されてしまいます。象潟町はほとんど岩棚ですが、私の生まれた田代町の田代岳の近くに天然スギがぼつんぼつんと残存しているところがあります。その天然スギの太い横枝に営巣しております。それが分かりましてからは森林管理局が中心となって、今も周辺調査をずっと続けてもらっております。献身的な調査を見守っております。

表2 イヌワシ営巣確認状況一覧

番号	営巣地	営巣樹	営巣地の標高(m)	巣の直下の谷底の標高(m)	谷底から巣までの高さ(m)	営巣岩壁の高さ(m)	営巣岩壁の幅(m)	営巣斜面の方位(開口面)
1	太田町	岩棚	550	280	270	50	125	東
2	東成瀬村	岩棚	500	480	20	50	125	南
3	象潟町	岩棚	800	650	150	70	280	東
4	田沢湖町	岩棚	470	420	80	30	30	南
5	田代町	スギ(天然)	450	210	170	-	-	東
6	能代市	キタゴヨウ	250	100	150	-	-	北西
7	八森町	岩棚	550	170	380	60	250	南東
8	鹿角市	キタゴヨウ	350			-	-	
9	藤里町	キタゴヨウ	470	200	270	130	100	東
	平均(m)		488	314	186	65	152	

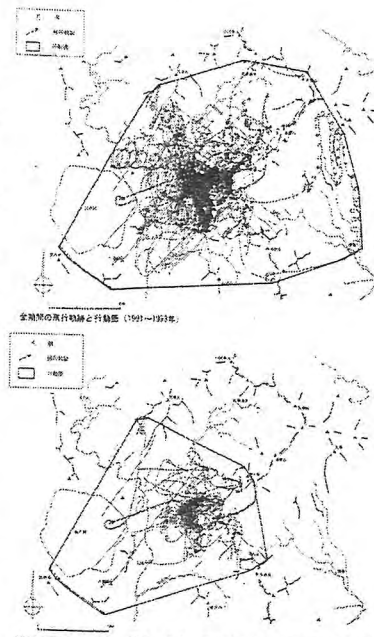


図2 十丈ノ萬のイヌワシの行動圏 (日本自然保護協会 報告書79号 1994より)

表3 イヌワシ繁殖確認状況

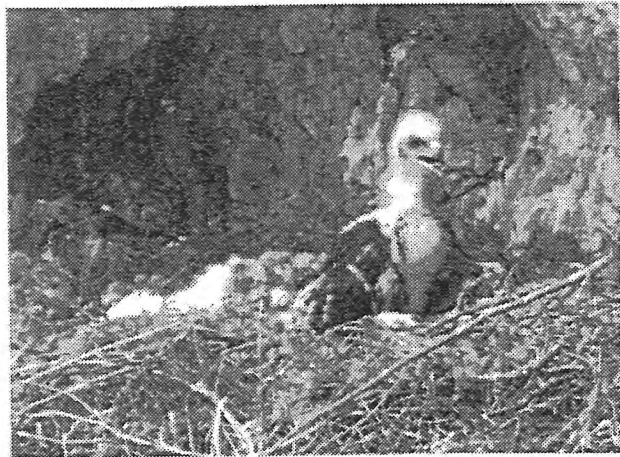
番号	営巣地	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
1	太田町										巢作りまで	巢立ち確認
2	東成瀬村							巢立ち確認?	巢立ち確認	巢立ち確認	巢立ち確認	巢立ち確認
3	象潟町					巢作りまで	巢作りまで	巢立ち確認	失敗			
4	田沢湖町	巢立ち確認	2羽ふ化まで	巢立ち確認	巢立ち確認	巢立ち確認	巢立ち確認	ふ化失敗	巢立ち確認	巢立ち確認	巢立ち確認	巢立ち確認
5	田代町			雛死亡	巢立ち確認	雛死亡(推測)	雛死亡	巢作りまで確認	失敗			
6	能代市								巢立ち確認			
7	八森町					巢作りまで						
8	鹿角市		巢立ち確認									
9	藤里町								巢作りまで			

それから東成瀬のダム絡みの調査で発見されたところは、ほとんど岩棚ですが、キタゴヨウとか天然スギというよなものに営巣する場合があります。これは岩棚がない地域に限ってこういう天然の大きな大木の横枝に巣を作る場合があります。クマタカは岩棚に営巣することは決してありません。必ず樹上であります。田沢湖町の営巣地は谷所で標高が大体470mを示しております。大体、山岳地帯の険しい崖に多く営巣するんだと言うとを分かって頂ければよろしいかと思えます。これは一番繁殖成績が良い田沢湖町の営巣地で、同じ巣で長期間に亘り成功しております。2001年までのデータしか有りませんが、ここでは孵化はしたけれど失敗したという例がありません。その後、去年は失敗しておりますが、その前は成功しております。そして全く同じ巣で非常に繁殖成績がよい箇所です。ところが営巣調査で開発行為のあるよとそれに、対して私どもが結論を下した直後に巣が崩落してしまいました。多分凍結した岩の割れ目に氷が入り、それが溶けるうちに一緒に巣材が全部落ちてしまったらうと考えられております。

そこで、対応をどのようにしようかと田沢湖町の町長と県に相談しました。鳥海山の例もありますので、これでは少し危険だけれど法面工事の業者に頼んで巣の修復をしてもらうため、多くの予算を計上して修復することにしました。ところが法面工事の業者はとても怖くて出来ないということで、そこでロッククライマーの山屋さんをお願いしてロープで横に振りながら、巣材である木の枝等を運んで完全に人工的に修復しました。そうしたら、翌年からその人工巣で繁殖を始めたという例がこの田沢湖町の十丈の滝です。



これが十丈の滝で最近撮った写真で、田沢湖町の千葉さんの写真をお借りしたものです。こちらの方が親でこれが雛です。もう巣立ってもいいくらい大きくなった雛鳥で餌のノウサギをもってきているのが分かります。これは人1人がごろんと寝てもまだ余る位の大きなスペースを保っております。これは完全人工的巣材を作ってあげた巣で繁殖したものです。ごく最近です。



これは、ノウサギを餌として持ってきています。まだ若鶏でかなり白い羽毛が黒に変わりつつある鶏大の大きさに育った雛のイヌワシです。これも千葉さんの撮影されたものです。

もう一つの調査例を参考までにお話しします。これは鳥海山の山形県側の八幡町の例です。八幡町と山形県の環境保全部長が参りまして、ここ鳥海山の裏側にスキー場を作りたいという立案があるようだが、どうしたらよいだろうという相談を受けました。わざわざ山形から秋田まで参りまして私の研究室で相談したんですけど、私は「何もない白紙状態で物事を相談されては困る、基礎的な調査位はしたらどうですか」という助言をしました。実はこの近辺に東北電力が送電線を張る予定がありまして、これは青森県から酒田市への送電線です。その基礎的な調査を当方でやっており、ちょうどそれに私も参画しておりましたので、東北電力の関連会社が調査したデータがあります。そのデータを頂いて参考にしたらどうですか。調査も非常に早く安価に出来るんじゃないかということを進言して、東北電力にお願いしてそのデータを頂戴する事にしました。しかし、それだけでは面白くないので、やっぱり山形県として調査すべきだろうということで、由井さんと私と関山さんだったか、それから山形大学の天津先生を委員長とする検討委員会を作りまして、このイヌワシの行動範囲を調べることにしました。この調査をした母体は東北電力の関連会社の東北緑化保全株式会社が主に調査をしまして、このような行動圏の地図を作って頂きました。実はそうこうしているうちに、この辺にイヌワシの巣が初めて見つかりました。これは山形県の酒田に本拠がある山岳会のグループが発見いたしました。この殿様コースの近くであり、何百メートルも離れておりません。ここもやはり私どもの検討委員会ではイヌワシの繁殖に影響があるというふうに結論付け、山形県の方に報告いたしました。そうしたら環境保全部長がまた走って参りまして、この結論の部分だけでも「影響がある」ではなくて「影響があると思われる」と言うふうに表現を直してほしいとのことでした。私は、何故ですか同じ事でしょうと言ったんですけど、議会で答弁するとき

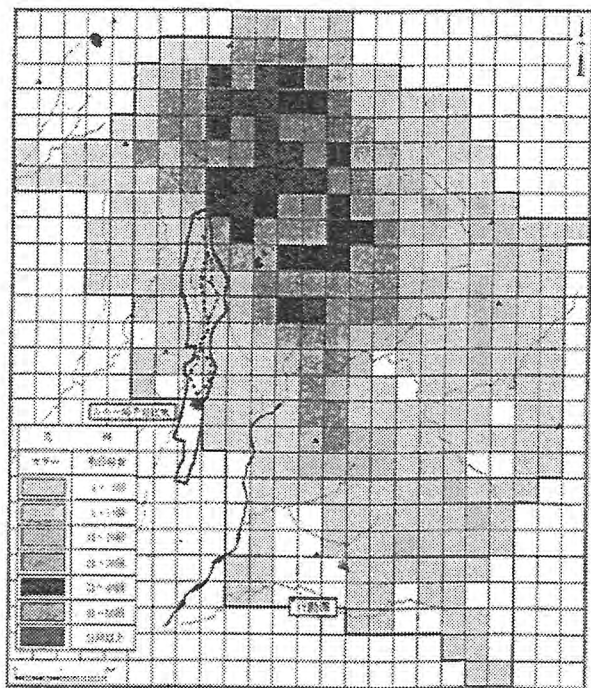


図3 山形県八幡町のイヌワシの行動圏とスキー場予定地との関連図(山形県 鳥海山イヌワシ調査報告書 1997より)

に「と思われる」の方が非常に説明し易いという判断のようで、まあどっちでも同じだから良いでしょうということで修正しました。そうしたら、ここは国土計画が計画している殿様スキー場だったんですが、その後、国土計画が手を引きスキー場が駄目になりました。開発されなかった二つの事例をお話しましたが、これはイヌワシに関してであります。イヌワシはご存じのように巣が固定されておりますので、何処にも行きようがありません。相当広い範囲にわたってハンティングのために行動しております。この色の濃い部分が最も多く飛翔しているところであります。95%行動圏になります。

さて、イヌワシはこれくらいにしまして、次はクマタカの方に移ってまいります。図4はクマタカの分布を示したものであります。イヌワシの場合は片仮名のコの字形に分布しておりましたが、オオタカの巢は奥羽山脈を挟んで海岸部とその途中の中間部分に、こういうふうにはベルト状に生息していることが現在知られています。つまり私どもの農耕地帯とブナ林との間くらいの所にクマタカが多く生息しています。けっこう農耕地帯まで彼らの行動圏が入り込んでいるということが言えるかと思えます。

実は私の教え子がカモシカと熊をやっている、仁別に学生のころ入り、慌てふためいて帰ってきて、カモシカの調査をしていたら何かタカのような巢があるということで、その場所に一緒に案内して連れて行ってもらいました。なんのことはないクマタカでありました。立派な天然秋田スギの枝の上に営巣しておりました。そこで「お前は口笛吹いて歌を歌って山から降りろ」と、「僕は此処でちょっと写真を撮影してから帰るから」という手法、だまし作戦をとりまして粘ってみました。1時間ほど粘った挙げ句何コマかの写真を撮ることが出来ました。それが仁別です。図4のクマタカ生息・繁殖地分布図は、イヌワシほど希少じゃないということで、10kmメッシュじゃなくて5kmメッシュにしました。それでも勘の良い人はだいたい営巣地が分かっけてしまいます。

その後、仁別の天然秋田スギは伐採されて無くなってしまいましたが、まだ仁別の近辺にクマタカがいるということは、私、ちょくちょく仁別に入って釣りをしながら上を見て、竿を振りながら上を見ているんですね。鳥屋の習性って大体こんなものです。一度は仁別の仁別沢に入っていくところの川でイワナ釣りを楽しんでいたら、後ろで何かゴソゴソと音がしたんです。何だろうと思って振り返って見たらヤマドリのオスが私の後をずうっと歩いていました。突然、反対側の林道の方からふわっと何か降りて来たんです。黙って見ていたらヤマドリの上にオオタカが降りまして獲物を仕留めておりました。僕との距離は10m位しか有りません。目と目がバッチリ合っちゃいまして向こうもビックリしたんでしょうね。そのままヤマドリを放して飛び去って行きました。それが非常に印象深く残っております。ただ僕がそれで良いことをしたのか悪いことをしたのかまだ迷っております。つまりオオタカの餌を僕が分捕ってしまったような感じになります。ヤマドリは元気よく岩の割れ目に入っていました。僕が近づいても全然動こうとしません。そこで僕は右手をお腹の方に入れて左手で背中を持って、そっと引き出して放してやりましたが、そのままとことこと歩いて逃げて行きました。それで僕はオオタカに対しては罪人になりましたが、ヤマドリに対しては恩恵を被ったと思います。そんな経験を此処でしております。

その後、去年の6月でしたか。仁別の実験林の調査に行く時に何かクマタカの雛の声がするんです。そこで車を止めてじっとしておりましたら、やっぱり同じところでクマタカの雛の声がします。声がる沢の所に歩いて行きましたら立派な巣がありま

クマタカ生息・繁殖地分布図

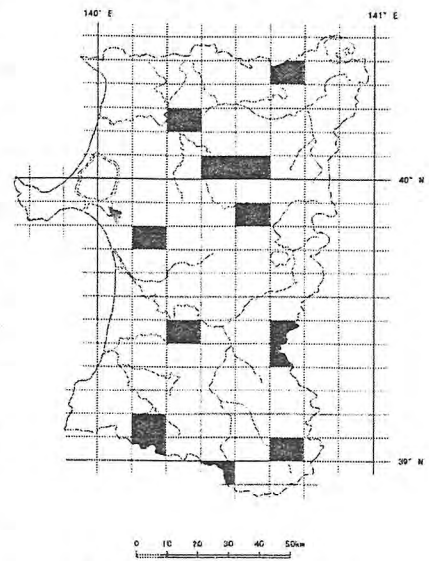


図4 クマタカ生息・繁殖地分布図

した。大した斜面で無いんですけれども腰が痛かったんで大木のスギの木に身を寄り掛けて黙って上を見上げましたら、何のことはない2・3メートル離れた所に、迷彩色のブラインドを張って撮影している男がいましたので「どうもこんにちは」と名刺を差し出して怪しいものではないということで挨拶してみました。その翌日、新聞に投稿の記事が載っていました。クマタカの巣を発見したという記事です。それが出た以上、今度は森林管理局が黙っていられませんので、直ぐに局は動いてその男と接触して写真を頂戴してあるはずで。私も署長達と一緒に現地へ行きまして巣を関係者と一緒に見てまいりましたが、ヤマヒルに取り付かれて大変でした。もう二度と行きたくありません。そういう訳でこのようなベルト状の範囲の所にクマタカが多く生息しているということは言えると思います。

表4 クマタカ営巣確認状況一覧 ※1

番号	営巣地	営巣地の標高(m)	営巣樹の詳細		巣の詳細	
			樹種	樹高(m)	巣高(m)	巣の大きさ(cm)
1	大館市	370	アカマツ	23	18	120×120
2	大館市	400	スギ(天然)	25	15	φ150
3	大館市	280	スギ(植栽)	30	17	100×70
4	森吉町	360	ミズナラ	20	15	φ80
5	森吉町	310	スギ(天然)	48	30.5	φ80
6	森吉町	350	スギ(天然)	38	16	120×150
7	森吉町	300	スギ(天然)	23	10	φ90
8	森吉町	300	スギ(天然)	35	15	φ70
9	六郷町	450	スギ(天然)	25	20	φ100
10	東成瀬村	650	キタゴヨウ	35	15	φ70
11	東成瀬村	450	オニグルミ	28	20	φ100
12	阿仁町	580	キタゴヨウ	30	7	φ100
13	雄勝町	500	スギ(天然)	40	30	100×120
14	雄勝町	450	クロベ	28	17	100×110
15	太田町	390	キタゴヨウ	25	12	
16	鳥海町	500	キタゴヨウ	-	-	-
17	鳥海町	520	ミズナラ	15	8	φ100
18	秋田市		スギ(天然)			
19	二ツ井町	175	スギ(天然)			
20	雨外村		スギ(天然)	-	-	-

※1 営巣地および営巣樹の詳細、巣の詳細は以下の資料による。営巣地の標高(m)は営巣地の位置より、国土地理院発行の2万5千分の1地形図、5万分の1地形図から読みとった数値である。

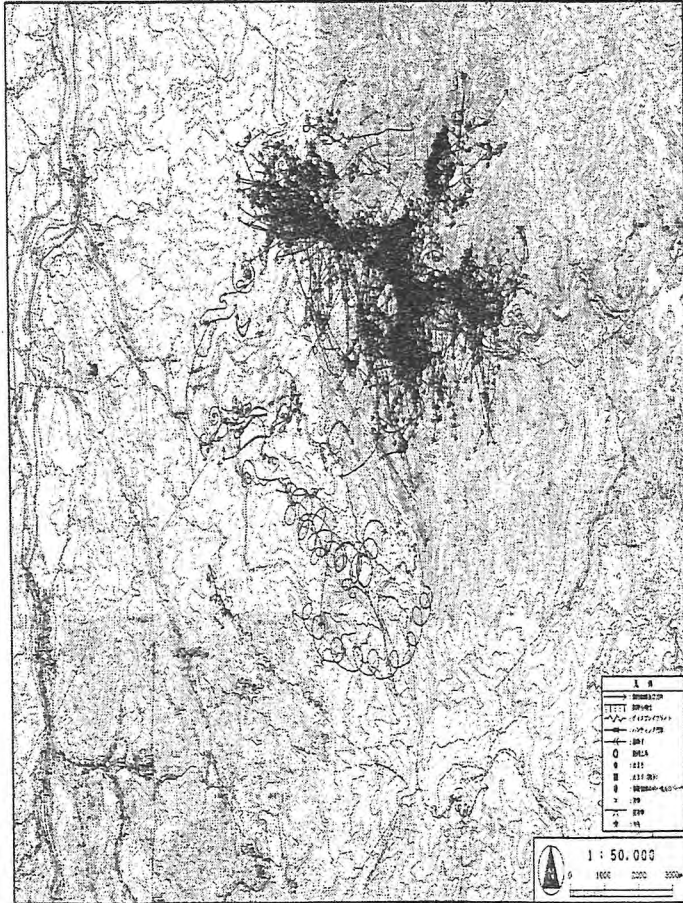
表5 クマタカ繁殖確認状況

番号	地域	1999	2000	2001	備考
1	大館市				1995年確認、古巣現在落巢
2	大館市	巣立ち確認			
3	大館市		巣立ち確認		
4	森吉町				1997年確認、古巣現在落巢
5	森吉町	遠巣確認	遠巣確認	遠巣確認	1999～2001年繁殖の確認なし
6	森吉町	巣立ち確認			
7	森吉町		遠巣確認	遠巣確認	2001年卵殻片採取
8	森吉町		巣立ち確認		
9	六郷町		巣立ち確認		
10	東成瀬村				抱卵中放棄
11	東成瀬村				巣立ち確認
12	阿仁町	巣立ち確認			
13	雄勝町		繁殖に使用		2000年卵殻片採取
14	雄勝町		古巣確認		
15	太田町			幼鳥確認	
16	鳥海町		遠巣確認		
17	鳥海町			幼鳥確認	
18	秋田市				現在営巣木伐採
19	二ツ井町		巣立ち確認	巣立ち確認	
20	雨外村			巣立ち確認	

表4は先ほどのイヌワシと同じように町名と営巣地の標高です。やっぱりイヌワシよりは標高が低い所に営巣しています。大体高くても500mありません。標高が低い所では175m位の二ツ井町の「きみまち坂」の反対側あたりです。これは日沿道の調査の時に発見されました。これも天然スギの太い横枝に営巣しております、まだやっていると思います。そろそろ巣材を運ぶ時期になりかけております。このように営巣樹種はアカマツ、スギそれからミズナラ、キタゴヨウ、オニグルミ等々ミズナラにもやっています。色んな木の立派な木に立派な巣を掛けて営巣するのがこのクマタカの特徴です。岩棚には決して繁殖していません。

表5は繁殖成績であります、クマタカはどうしたことかイヌワシと違いましてしょっちゅう巣を替えるという特性をもっております。この森吉町なんか比較的連続して繁殖しているように見えますけれど、別の巣でそれぞれ繁殖しているのです。彼らは近くに予備の巣を持っております。したがって、2・3年同じ巣で繁殖したという例もありますけれども、ほぼ毎年替えていると言っても過言でないくらい頻りに替えています。ただ、そんなに遠いところではありません。1999年から2001年の繁殖の確認なしとありますが、この2001年以降は繁殖兆しが余りないです。これもダム絡みの調査で発見されております。それから更に特徴的なのは、抱卵

中に放棄というのもあります。雄勝峠のあたりにも古巣が発見されております。また山形県側に行くと殆どブナ林の中でたくさんクマタカが繁殖しているという例は、この局でも情報はキャッチしていらっしゃるはずですが、二ツ井町は先ほどの日沿道関係で調査した例です。これも同じ巣のように見えますが、ちょっとおかしいですね。別々の巣でごく接近した巣なんだけれども営巣木が違っております。だけれども巣立ちには成功しているというのが確認されています。

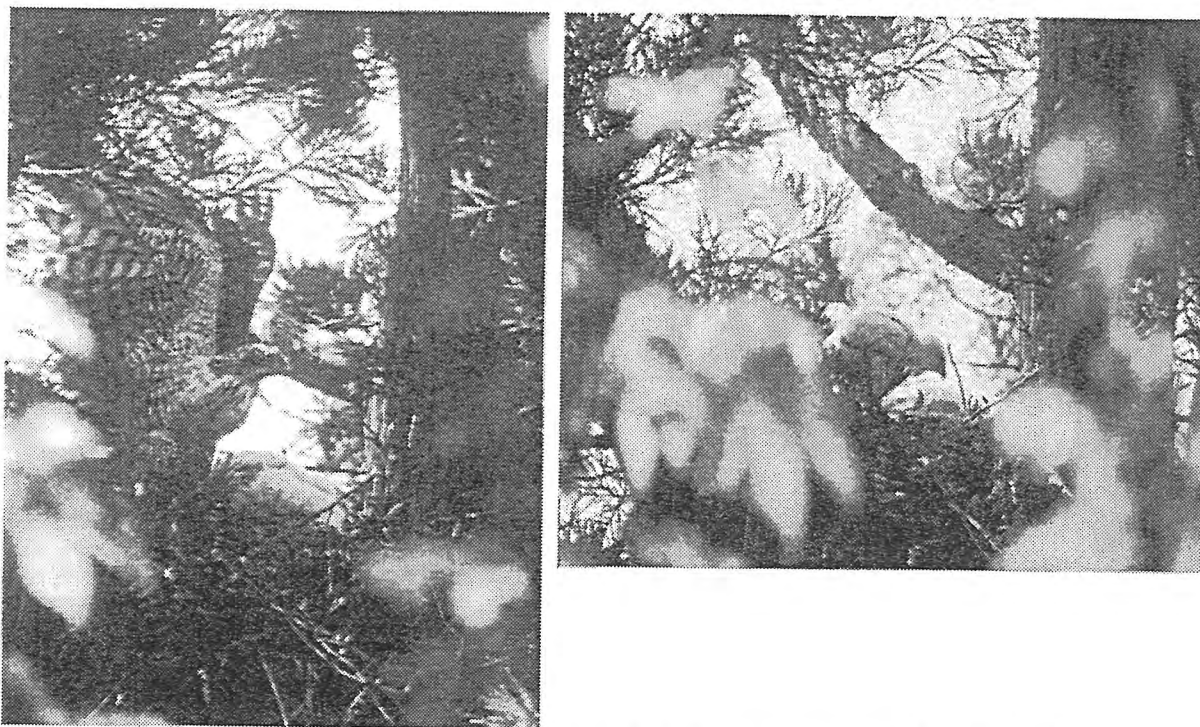


これは森吉ダムが調査依頼した資料を掲載することを許可して頂きましてこの本の中に取り入れてありますが、これは複数年の飛行軌跡、実はこの近辺に巣が有るんですけど、この場所はダムのために岩を採った原石山の付近です。原石を採るためにダンプが工事を続行中でも、なおかつ、その上空を飛行しているのが確認されております。こういう重機類に対しては案外嫌がらないですね。ここでは発破も掛けます。何回かこの原石山で発破を掛けてどういう反応をするかのテストをしておりますが殆ど影響がありません。近くにトビが留まっていたんですけどトビもびくともしない。発破の音が案外響かない。今は低震動であまり音がしない発破が工夫されてお

りまして、案外我々が近くで見ていると殆ど影響がないような音しか出ません。デシベルにして何デシベルか数字忘れましたがそんなに高い騒音ではないような気がいたします。それもかえって人の動きの方が気になるのかなという気がしております。ここの巣にはモニターカメラをモニターリングの代わりに設置して、常時、事務所の中から画像でクマタカが入ったか入らないかを確認するよう、明るいうちは24時間態勢と言っていると思いますが、モニターリングできるようにしてあります。ここは丁度光ファイバーも入っておりますので、それで事務所までコードを引っ張ってきましてテレビで見ながら監視できるというシステムをとっています。ただ、残念なことにそれ以降はこの巣で繁殖した兆しはありません。ちょうど今ごろなんですけど、まだ雪が巣の上に積もっているその上にドッカーリ親が乗っかりまして、雪を胸で除雪しているという風景が何回かはモニターで映し出されております。その他リスが訪れてみたりテンが登ってきいたり、ほかの鳥獣がこの巣を訪れているという風景がちょっと面白いと思いますが、撮影されております。いずれにしろこういう広範囲に亘ってしかもここは相当頻繁に上空を飛んでいるのが分かります。そこでこの岩石山をどう

にかしようかということになったんです。

岩石山の石の採り方がまともにクマタカの繁殖営巣木の方に向けた方向から石を採りたいという最初の方案だったんですけど、この原案を私ども検討委員会でちょっと角度を変えよう。後ろ側から採ってもらおう。それでどうだということで、いろいろ事務所の方とやり合い、折衷案を出しまして、ちょうど直接見えない方向から石を採るように工夫して岩石を採って頂きました。ところがいざ採って見ると、今度は総量が足りないということで、もう少しクマタカの巣の方向から見るところまで採らしてくれと言うような事が何遍か転々としました。現在のところ、もうこうなったら手を付けてしまったので、しょうがないから「早く静寂を取り戻してくれ」と言っていたのを「早く行為を終わってくれ」ということに方向転換をしまして、今年中には岩石山の採石を終わらせて緑化保全の方に転換するように、今お願いしているところです。とにかく静寂を取り戻さない限り、クマタカは営巣しないだろうとの判断から、早急に石を採ってもらって「静かにしてくれ」という事になりました。



これが先ほどお話ししました仁別国民の森の手前入り口のクマタカの状況です。学生に歌を歌って下がってもらった直後に、ノウサギを持って私の背後から直接入りました。当時は今のようにデジタルカメラなんかありませんので、モータードライブでガチャガチャと何回か撮ったうちの1コマだけが、こういうふうにあまああ良い写真が撮れました。これがひな鳥のはずです。親が持ってきた餌のノウサギを食べようとしているところです。この2・3秒の間、撮影しただけで学生が下で待っておりまして、私は1人しょぼしょぼと山を下り、そして学生と一緒に帰ってまいりました。



これは面白い非常に希少な写真なんです、実はクマタカなんです。これはニッ井の辺りなんです、ニッ井の国道からそんなに離れていないところです。アカマツの上にオオタカが営巣していて雛が入っていました。雛が相当大きくなってから、クマタカの若鶏がやって来まして、調査員のいる目の前でオオタカの雛を食べてしまったクマタカの若鶏だそうです。これは西出さんという私の鳥友達からお借りした写真です。こういう例はめったにないんですが、オオタカの雛がクマタカに食われてしまった直後の状況であります。

オオタカ生息・繁殖地分布図

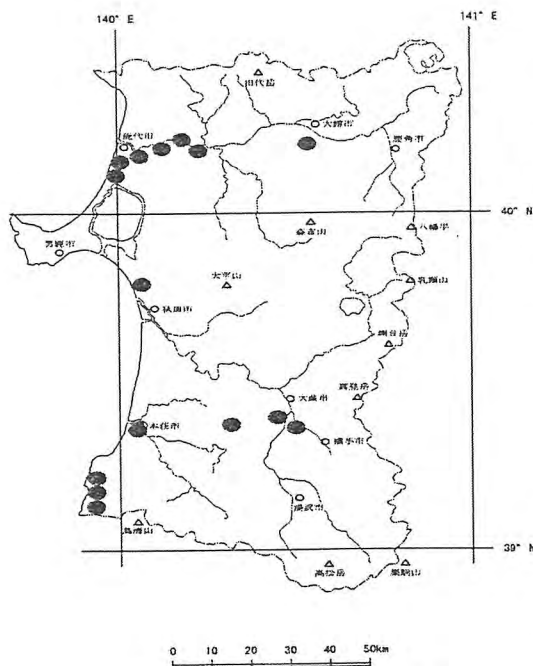


図7 オオタカ生息・繁殖分布図

さて次はオオタカなんです、オオタカはこの図でもわかりますよう逆コの字形です。海岸砂防林、県立大学の小林先生がいらっしゃる辺りの砂防林にも2・3羽は繁殖しているはず、ノスリも繁殖していると聞きました。秋田火力発電所から男鹿、天王の海岸にも生息しているはず、多分、向浜の松林にも生息していると思いますが、まだ確認されていません。ただ、松枯れでどうなるか海岸砂防林が駄目になってしまう可能性があります。これは小林先生の専門ですので、後で小林先生に伺っていただきたいと思います。まだ向浜のこの辺のクロマツは結構元気ですね。小林先生のお陰で、天王辺りも結構手入れをしていると見えて、まだ健全なクロマツが残っています。オオタカはそういう所で繁殖しております。あとは能代の辺り、米代川

の近辺、ここはやはり日沿道の関係で調査し、浅内浜の辺りもかなり密度が高くオオタカが繁殖しております。これは風力発電を設置したいと東北電力の申し出で調査しましたところ、何つがいかが出てまいりました。そこで余りにもオオタカの巣と風力発電の鉄塔を建てる位置が近かったものですから、ちょっと騙してみようじゃないかと言うことで、人工巣を海岸の方向に向かってオオタカの巣から段々海岸方向に離れた所に人工的にオオタカの巣を作ってやりました。そうしたら1年目でオオタカが離れた方向が、工事をしたい所よりももっと海岸寄りの方に人工巣の上に営巣してくれました。これは日本で初めてで、恐らく人工巣にオオタカが営巣した例だと思えます。

これは学会誌に、あの有名な山階鳥類研究所の報告書に論文として掲載されております。そしてその後、風力発電もちゃんと建っておりますが、両立し共存したオオタカも営巣しているようです。その他にはニッ井の国道沿いにも営巣しております。そして由利海岸にはずうっと営巣していると思います。本荘市の水林にも営巣していたんですが、マツ枯れで駄目になってしまいました。ここでは県が公園を作りたいということでしたが、ただ地元の連中の1人から反対がありまして、そういう工事をしたらオオタカの繁殖に影響があるんじゃないかということで、県から依頼されまして、私の大学の学生に調査して頂きました。その結果、非常に面白い事に、あのオオタカがアメリカザリガニまで食べているのがビデオテープで確認されました。オオタカは天然スギに営巣していました。ホームビデオの簡単な器具を三脚にセットして何時間かそのままにして置く。そうしてテープを交換に行くということを繰り返し、後でテープを解析したらアメリカザリガニまで食べていたということが分かりました。これは日本で恐らく初めてだと思えます。あの田んぼの用水路に生息しているアメリカザリガニです。これは外来種です。外来種を退治してくれているという実態が分かりました。これはまだ未報告なんですけど、学生の研究論文として大学に提出する報告書には出してあります。ところが、反対者から「そういう調査をするからオオタカが営巣しなくなるのではないかと」と公開質問状を貰いちょっと汗をかきましたが、そんなことはない。自然の成り行きでオオタカもクマタカと同じように転々として巣を替える習性をもっております。だからオオタカがいるからといって林野がそこを伐採するとか、しないとかという問題には結びついてこない。うまく避ければ良いわけです。あるいは繁殖期を避けるとかという形で伐採していく分にはオオタカにとっては影響はないだろうと見ています。したがって、色んな所でそのクマタカと開発問題がバッティングするんですけど、私どもの指導としては、繁殖期をできるだけ避け、繁殖期以外

表6-1 オオタカ営巣確認状況一覧

番号	営巣地	営巣木	樹種	営巣林	営巣木の平均標高(m)	樹高(m)	胸高直径(cm)	樹高に対する樹高割合(%)	巣の大きさ(cm)	巣の厚さ(cm)	備考(確認状況他)	
1	龍代市黒川	1	アカマツ	アカマツ林	75	21	20	15	71.4	85	1996, 1998年の繁殖に使用	
2		2	アカマツ	アカマツ林	70	14	18	10	71.4	80		
3		3	アカマツ	アカマツ林	50	35	32	28	80.0	60		
4		4	アカマツ	アカマツ林	65	22	25	19	86.4	30		
5		5	アカマツ	アカマツ林	85	23	26	20	87.0	50		
6		6	アカマツ	アカマツ林	80	15.5	34	9	58.1	80		
7	ニッ井町駒形	1	アカマツ	アカマツ林	50	21	27	17	81.0	51	1994~1998年の繁殖に使用	
8		2	アカマツ	アカマツ林	40	22	32	18	81.8	90		
9		3	アカマツ	アカマツ林	50	15	42	8.1	54.0	90		
10		4	アカマツ	アカマツ林	80	25	33	16	64.0	57		
11		5	アカマツ	アカマツ林	45	17	48	10	58.8	70		
12	龍代市大谷野	6	スギ	スギ林	50	28	48	18	64.3	80	2001年繁殖に使用	
13		1	アカマツ	アカマツ林	115	12	33	8	66.7	114	1998年の繁殖に使用	
14		2	アカマツ	アカマツ林	110	22	50	19	86.4	55		
15	3	アカマツ	アカマツ林	105	26	40	10	38.5	98			
16	ニッ井町切石	1	カラマツ	スギ林	70	70.0					2000, 2001年繁殖に成功	
17	大曲市西瀬	1	スギ			25		20	80.0	70	1999年繁殖に使用(抱卵中、カメラマンにより放棄)	
18	大曲市角間川	1	スギ	スギ林	30	28	57	17	60.7	70	2001年繁殖に成功(巣立ち確認)	
19		2	スギ	スギ林	30	28	57	20	76.9	60		
20	本荘市大堤		スギ	スギ林	40	40.0	35	73	17	48.6	60	1998年繁殖に成功
21	金浦町前川	1	スギ		70	13	25	10	76.9	120	2001年繁殖に成功(抱卵確認、その後すぐに放棄された)	
22		2	スギ	スギ林	55	66.7	15	40	10	66.7	120	1999年4月から繁殖、抱卵まで確認、その後巣の一部落下により繁殖に失敗する。2000年変化なし。2001年4月産卵まで、繁殖には使用せず。
23		3	スギ		75	15	20	8	53.3	80	2001年4月繁殖から抱卵まで確認、その後すぐに巣は放棄された。	

に工事をして下さい。そうしたら何の事はないだろうと、日沿道が完成したら別の離れた所でオオタカは営巣してくれるだろうという見切り発車をしているところです。

表6-1はオオタカ営巣確認状況です。山間部のブナ林地帯では、全く繁殖していないと言うことではないけれども、ブナ林の真っただなかでは、ほとんど営巣していないという状況がお分かりいただけると思います。表には全部羅列してみました。アカマツが非常に多い。カラマツはニッ井町で、カラマツの横枝で繁殖しておりました。それ

からあとは全部スギで、スギ林が非常に多いんです。スギ林とアカマツ林が圧倒的に多くクロマツ林も結構あります。海岸はほとんどクロマツ林ですからクロマツに多く営巣しております。いろいろゴチャゴチャ並べた数字がありますが、1番標高が高いところでも115m位のところです。ほとんど20~30m位から100m以内のところに主に営巣してるというのがオオタカの基本的な特徴かと思われまます。

表6-2 オオタカ営巣確認状況一覧 ※1

番号	営巣地	営巣木	樹種	営巣林	営巣木の標高(m)	営巣木の平均樹高(m)	樹高(m)	胸高直径(cm)	巢高(m)	樹高に対する巢高の割合(%)	巢の大きさ(cm)	巢の厚さ(cm)	備考(確認状況他)	
24	象潟町向山	1	アカマツ(枯木)		35	42.5	14	60	10	71.4	80	40	2001年6月抱卵確認、その後すぐに巣は放棄された。	
25		2	スギ	スギ林	50		27	70	20	74.1	100	40	2001年6月に抱卵確認、幼鳥2羽巣立ち確認。	
26	象潟町大砂川	1	アカマツ	スギ林	135	132.5	22	40	16	72.7	100	70	1999年幼鳥3羽巣立ち、その後使われていない。	
27		2	アカマツ		130		18	60	12	66.7	80	40	2000、2001年幼鳥各3羽巣立ち。	
28	能代市浅内 ※2	1	クロマツ	クロマツ林	10	10.0	20	37	12	60.0	40	30	2001年繁殖に使用	
29		2	クロマツ	クロマツ林	10		26	37	16	61.5	50	40	2000年繁殖に使用	
30		3	クロマツ	クロマツ林	10									1999年繁殖に使用
31		1	クロマツ	クロマツ林	10									2000年繁殖に使用
32	能代市成合	2	クロマツ	クロマツ林	10	10.0							1999年繁殖に使用	
33		3	クロマツ	クロマツ林	10									古巣
34		4	クロマツ	クロマツ林	10									古巣
35	大内町畑野沢	1											2000年発見	
36	天王町牛坂	1	アカマツ	アカマツ林									1998年繁殖に使用	
37	大館市大倉釜山	1											1999年繁殖に使用	
	平均					57.7	21.5	39.8	14.8	68.5	73.6	33.7		

※1 営巣地および樹種、樹高(m)、胸高直径(cm)、巢高(m)、巢の大きさ(cm)、巢の厚さ(cm)は以下の資料による。営巣地の標高は営巣地の位置より、筆者が国土地理院発行の2万5千分の1地形図、5万分の1地形図から読みとった数値である。

表7 オオタカ繁殖確認状況

番号	地域	1996	1997	1998	1999	2000	2001
1	ニツ井町切石					巣立ち確認	巣立ち確認
2	ニツ井町駒形						巣立ち確認
3	能代市扇田	巣立ち確認		巣立ち確認			
4	能代市大野台			巣立ち確認			
5	能代市浅内浜				巣立ち確認	巣立ち確認	巣立ち確認
6	能代市成合				巣立ち確認	巣立ち確認	
7	大曲市西根				抱卵放棄		
8	大曲市角間川						巣立ち確認
9	本荘市大堤			巣立ち確認			
10	金浦町前川				抱卵後巣落下	変化なし	抱卵後放棄
11	象潟町向山						2羽巣立ち
12	象潟町大砂川				3羽巣立ち	3羽巣立ち	3羽巣立ち
13	大内町畑野沢					巣を発見	
14	天王町牛坂			巣立ち確認			
15	大館市大倉釜山				巣立ち確認		

表6-2もオオタカの営巣を確認をしたのものです。クロマツが結構多いです。この辺りは海岸クロマツ林に多く営巣しています。能代市浅内がクロマツが多いです。それ以外はアカマツ、スギ林というのが多いのが分かります。トータルで37箇所で営巣していたものであります。これも私自身が調査したものでなくて、いろいろなアセスで成果が出てきたものを集約したものであります。

表7はオオタカの繁殖確認ですが、この辺は全部同じ図で確認したように見受けられますが、そうではありません。これは営巣木それぞれがみな違ってあります。隣接した木に繁殖の巣を移し替えている所です。ほとんどのオオタカの営巣は連続して3年以上というのを確認したことはありません。3年間までは同じ木を使うことがあります。人工スギで面白かったのは、浅内浜なんです。本来のオオタカの巣からだんだん50m位ずつ離して海岸の方に誘導していきました。ところが1番立派にできたと思われる巣にはトビが入ってしまいまして、オオタカは追い出され涙を飲みました。ただ私ども人間が良いと思ってもオオタカにとっては良くないかも知れません。ただトビ

が営巣してしまいますと、そのあとは決してオオタカは利用しません。トビの巣の使い方が非常に汚いんです。ビニールのひもとか食品が入ったビニール袋など、そのような物をやたら巣の中に持ち込みまして、だらしなく使うんです。そんなことをしたらオオタカは絶対にもう利用はしません。放棄してしまいます。



これは仁別国民の森に行く途中、松原辺りを車で走っているときに偶然見つけたオオタカです。旭川の河川敷の木の枝に留まってじっとしておりました。餌を見張っていたんだと思います。そこで車の後部座席を見たら800ミリの望遠レンズが入っていたので、その時に撮った写真です。決して絵はがきから撮ったものではありません。私自身が撮ったものです。

取り急ぎ秋田県内のイヌワシ、クマタカとオオタカの繁殖状況についてお話いたしました。決して私ども人間活動とこれら稀少猛禽類が共存していくことが出来ないということではなく、いろいろ工夫さえすればイヌワシ、クマタカであっても私ども人間活動と共存できるのではないかなと思います。今までアセスに関わってきた私の態度というか考え方というか、何とか共存していける方法論を模索しているところであり

ます。そういう例を何点かお目にかけました。今後もこういう状況はまたさらにながっていくと思います。少子化時代とはいえ人間も生活して行かなければなりません。したがって公共事業が駄目だということではなくて、公共事業も私ども人間生活が文化的な生活をしていく上ではどうしても必要な事です。何とかそういう稀少猛禽類と共存を図りながら今後も私の立場を表明していきなというふうに考えております。

図表、写真は全て「秋田の貴重猛禽類」(秋田魁新報社2004)より転写したものです。